

登別市中央地区まちづくり協議会 第5回ワーキンググループ 議事録

開催概要

日 時 令和5年5月16日（火） 18:00～19:00
場 所 登別中央ショッピングセンターアーニス 2階 あえるSTATION
出席者 ワーキンググループ委員 別紙のとおり
事務局・オブザーバー 別紙のとおり
登別市職員：服部 仁（商工労政G）、鳥海 秀充（市民協働G）
相馬 杏（市民協働G）

議事内容

1 開会

事務局（総務部本庁舎整備推進グループ）が進行

2 コンセプトづくりに向けた協議

- 今後のスケジュールの確認
- 前回実施のワーキンググループの振り返り
 - ・各グループで意見のあったものについて確認
（「まちをきれいに」「にぎやかさ」「つなげるまち」「一緒に行こう」「ふらっと行ける」「ホッと一息登別」「みんなで育てる」「戻ってきたくなる」など）
- 各グループ毎でコンセプト化のに向けた協議

【参加した委員等からの主な発言】

グループ①

- ・多世代の人々がつながると新しい価値が生まれ、新しい経済（商売）が出てきて、賑わいにつながる。
- ・人々がつながると新しい価値観を共有できる。
- ・まちに思いやりのある温かさがあれば、市外からも人が寄ってくるまちになる。
- ・人々が出会える場所があれば、人々のつながりが生まれる。人々が集まり知恵を絞れば、新しい価値を生み出し、お金がなくても色々な取組みができる。
- ・コンセプトは頭に残るようなものもいい。これはどういう意味かと考えさせられるような単語があれば、それがきっかけで会話につながり、記憶に残るかもしれない。
- ・最終的には、人々の心の豊かさにつながる事が重要だと思う。

グループ②

- ・「ほっとほくほくほっこりほろべつ」みたいな、あたたかいイメージの幌別になってほしい
- ・常に人がいる。いつでもだれでもなんでも自分の好きなことができるまちがよいと思う。

○各グループでコンセプト案の概要作成

案1 「つながるまち つなげるまち つたわるまち つたえるまち」

→人と人、世代と世代、まちと人、歴史と人、様々な形でつながり、つなげることで、そこで生まれたつながりやまちの歴史などが、つたわり、つたえていくことで、新しい価値、新しい経済、将来につながっていくのではないかと。そのようなまちになればいいのではないかという思い。

案2 「まちと温泉、人と人がつながり、未来をつむぐまちづくり」

→登別市に住んでいる住民だけではなく、温泉を訪れる観光客など、あらゆる人が、様々な形でつながることで、よりすばらしい未来を築いていきたいという思いを込めました

案3 「いつでもだれでもほっと一息 ふらっと行きたくなるまちづくり」

→住んでいる人も観光できた人も大人も子どももふらっと来て、それぞれが自分の好きな時間を過ごせる。人が集まって、人で賑わい、交流がうまれるまちになればと思う。

3 その他

○委員からの情報提供等について

- ・登別市と姉妹都市である宮城県白石市にある「こじゅうろうキッズランド」について
- 施設内は小学生までの子どもたちが遊べる施設で、親子だけでなく、多世代の方々が交流できる施設となっており、市民に限らず、温泉を訪れる観光客も遊びにきて、まちがにぎやかになるのではないかと

○次回開催予定

- ・次回の開催は未定（協議会等と調整して決定する予定。）

4 閉会

19時00分 閉会

以上